

# 型染を巡る旅展

## 作家の紹介

### 型絵染め

かまがとしこ  
釜我敏子



釜我さんの作品作りは散歩をしながら、自然の中に人知れず咲く草花をスケッチし、布にその時の一瞬の美しさを投影していきます。柔らかで優しい色使いの中にも、生命力あふれる力強い草花の様子が見事に描かれています。



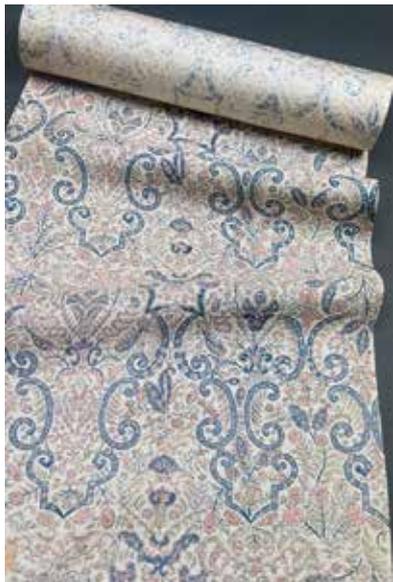
### 型絵染め

たかやま かずこ  
高山和子

型絵染らしい大胆な構図に4枚の型からなる高山和子さんの大作。高山和子さんは芹澤銈介染紙研究所に勤務されたのちに、添田敏子さんに師事し、現在精力的な創作活動をなさっておられる作家さんです。どことなく師である添田さんの影響を感じさせながらも、個性的な高山ワールド全開の作品です。 2017年国展出品作

### 江戸更紗

あおきしやうぞう  
青木章二



戦後、絹地に更紗を施すという現代の江戸更紗の基礎を作った名工三代目更勝（さらかつ）、故青木新太郎氏。その名人の父より技を引き継いだ四代目青木章三さん。更紗は小紋でも通常30枚〜40枚の型紙を使って気の遠くなるような工程をへて作り上げられていきます。伝統の技とモダンで現代にマッチした色合いを融合させました。



### 紅型

たまなは ゆうこう  
玉那覇有公

かつては琉球王朝の人間にだけ着用することを許された気高い染色技法『紅型』。その紅型において、現在、重要無形文化財保持者（人間国宝）である玉那覇有公さんの染は、琉球王朝の伝統と新たな息吹を感じさせるそんな作品です。

釜我敏子、高山和子、小島貞二、関美穂子、金城盛弘、溝口あけみ、池深雪、他、着物・帯あわせて30点

#### 展示内容

型染めの製作工程や色の組み合わせの魅力を生かしたシーン別コーディネート術を着物、帯、小物や製作道具、パネルを使って展示いたします。

